

## ■ 共通の成果指標と達成目標

## 国際化関連

## ○ オンラインによる短期留学プログラム

9月21日～25日に、復旦大学との学生交流プログラム「日本と中国の文化交流講座」を開催。「日本の近代化と慶應義塾」、「日本と中国の言葉の交流」、「少女漫画」、「料理」など日中両国間の文化交流に関する全10回の講義を英語と中国語により行った。本学と復旦大学の学生のべ945名が参加し、最終日には、オンライン上で学生同士が直接対話する交流会も実施した。

2021年2月24日～3月9日、慶應義塾大学短期日本学講座（KJSP：Keio Short-Term Japanese Studies Program）を開催。本学とタイ・チュラロンコン大学、カナダ・マギル大学などの協定大学の学生計27名が参加した。

APRU: Association of Pacific Rim Universities（環太平洋大学協会）の加盟大学間で、APRU Virtual Student Exchange (VSE) Programのパイロット版が立ち上がり、本学からも授業科目を提供した（11大学・約80コース）。物理的な海外留学体験に代わるものではないものの、オンライン上で海外の学生を受入れ、本学の学生が海外の他大学の授業を履修するという新しい形の交換留学を実現した。また、今後のオンライン上での海外の大学との交流や国際教育の新たな可能性を示唆する試みともなった。<https://vse.apru.org/>

## ○ 国際学生寮の開設

2021年3月、学生寮「湘南藤沢国際学生寮」が竣工。学生寮としての機能に加え、国内外の学生が交流する場としての機能を併せもつ混住型学生寮で、本学の留学生用宿舎は、計10棟となった（うち7棟が混住型）。これまでの留学生用宿舎は日吉キャンパス周辺に多く、湘南藤沢キャンパスへの通学には1時間程度かかっていたが、キャンパス内に寮が開設されたことにより、さらに多くの留学生を受け入れる環境が整った。

## ガバナンス改革関連

## ○ 世界各国の学長等との意見交換

国際大学連合「U7+ Alliance（2019年7月のG7ビラルツサミットをきっかけに主にG7諸国の主要大学を中心に創設）」において、COVID-19や人種差別、不平等、学問の自由への脅威などの今日世界が直面する重大な課題に対処するため、2020年5月から翌年3月までの間に7回のオンライン会議を通じて、塾長・常任理事が世界各国の有力大学の学長等と議論を重ねた。

10月6日～9日、APRU Senior International Leaders Meetingにおいて、担当理事等が加盟56校とのオンライン会議に参加し、「Acting Together in the New Abnormal」をテーマに、コロナ禍における国際交流・各大学の国際戦略のあり方について議論した。Virtual Student Exchange Program（既出）の試行についての提案も行われた。

## ○ デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

2020年2月4日付で学内に設置された新型コロナウイルス感染症対策本部（本部長：塾長）による危機管理対応と並行して、オンラインによる授業やイベント開催、各種の会合、事務職員等の在宅勤務等を安定的に安全に行うために必要な措置として、オンライン会議システムの法人契約の拡充、教職員共通のチャットツールの導入、稟議決裁の事務システムのオンライン化等、DXを推進した。

## 教育改革関連

## ○ 教育支援システムCanvas LMSの導入

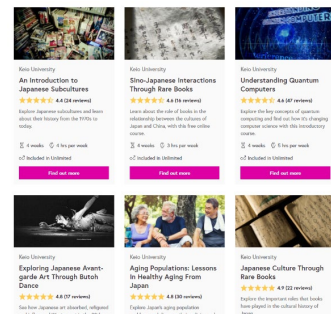
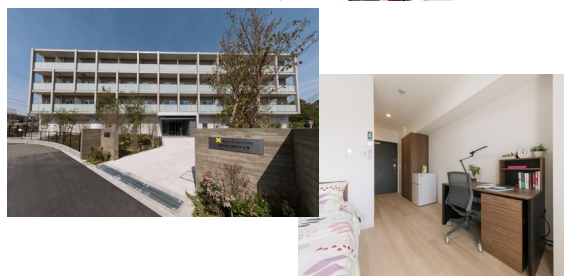
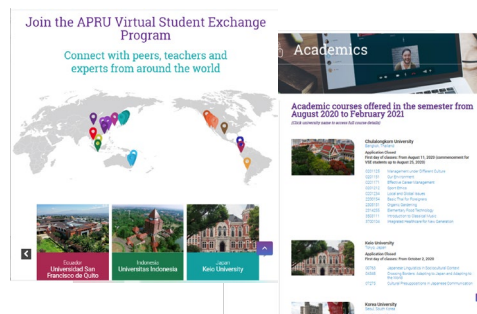
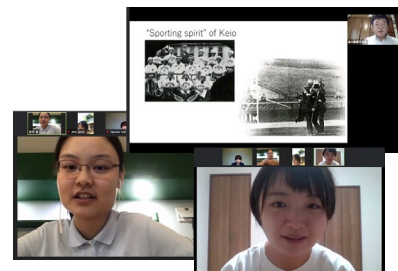
学事システムの国際化の一環として、日本の大学で初めて、Learning Management System (LMS) であるCanvas LMSの導入し運用を開始した。北米の有力大学（Stanford, Harvard, Carnegie Mellon, Columbiaなど）が利用しており、外部アプリケーションとの連携も容易に設定できる。

## ○ GICセンター（Center for Global Interdisciplinary Courses）

本事業採択を契機に設置したGICセンターは、英語（またはその他の外国語）による授業科目を提供するプログラムで、卒業時まで一定の条件を満たした科目の取得合計が40単位以上となった学生には、修了証が授与されるプログラムである。所属する学部に関係なく自由に履修でき、海外からの留学生も多数履修するなど国際的かつ学際的な人材育成拠点として定着しつつある。科学、環境、音楽、武士道、貧困、ビジネスなど、多様な科目を開講し、2020年度のGIC科目の履修者数は1,551名であった。

## ○ FutureLearn

過年度に引き続き、オンライン教育プラットフォームFutureLearnを通じて、慶應義塾大学の研究や学びの発信のみならず、慶應義塾が有する貴重書や芸術作品等のアーカイブを通じた日本文化を意識した情報発信を行った。2020年度は、昨年度比3コース増の10コースを開講した。



## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### ○ QSランキング分野別100位以内

QS World University Rankings by Subject 2021 において、7つの研究分野が世界100位以内にランクインした。100位以内に入った分野数では、東北大学と並んで日本の大学では第6位であった。QS World University Rankings by Subject は、人文、工学・技術、生命科学、自然科学、社会科学に関する51の研究分野に関するランキングである。

### ○ クロス・アポイントメントによる海外副指導教授制度

海外副指導教授制度により、2020年度は52名を任用した（2019年度は89名）。当初の任用予定は71名であったが新型コロナウイルスの感染拡大により19名が任用取消となった。2020年度は多くがオンラインによる遠隔指導となった。2014年の制度開始からの任用者累計は460名となった。

## ■ 国際的評価の向上につながる取組

### ○ 国際会議・イベントの開催

6月から7月にかけて4回にわたり、KGRI Virtual Seminar Series「コロナ時代の日本と世界：新たなパラダイムを危機とするか機会とするかを考える」をオンラインで主催した（後援：APRU（環太平洋大学協会））。大学生や研究者のほか、高校生、社会人など、約1,000名（うち海外参加者80名）の参加があった。4回のテーマは次のとおり。 <https://www.kgri.keio.ac.jp/news-event/070204.html>

- ・6月17日 医療と科学技術
- ・7月 1日 経済と労働
- ・7月15日 社会と法律
- ・7月29日 総括討議



Introducing study and research opportunities in Japan

**EXPERIENCE JAPAN EXHIBITION 2020 Online**

ONLINE

INTERNATIONAL UNIVERSITY ONLINE EVENT HALL

Saturday, 21 November

9:00 ~ 12:00 (JST) / 18:00 ~ 21:00 (JST)

9月30日、「第1回文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業オンラインシンポジウム～コロナ禍の高等教育における国際連携～」を主催した。パリ政治学院（Sciences Po）と香港中文大学からもゲストスピーカーを招き、新型コロナウイルスへの対応や課題、オンライン留学の可能性などに関して英語によるシンポジウムを行った。国内外から約430名がアクセスした。

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2020/10/8/27-75608/>



11月21日、日本留学フェア「Experience Japan Exhibition 2020 Online」を主催した。2001年から毎年英国ロンドンで開催してきたが、新型コロナウイルスの影響により初のオンラインでの開催となった。SGU採択大学などを中心に全国から20の大学・団体が出展し、各大学の日本留学プログラム、奨学金情報や日本留学体験談などのプログラムを提供した。オンライン開催にしたことで、出展者数・参加者数ともに過去最大となり、英国だけでなくアジアやヨーロッパを中心に世界中から例年（500名前後）を大幅に上回る1,353名の参加があり、活発に質疑応答などが行われた。

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2020/12/1/27-76533/>

### 「APRU Population Aging Research Program」総括レポート（2018-2020）発行

本学は、オーストラリアのニューサウスウェールズ大学（UNSW）の後を受け、2018～2020年の3年間、APRU Population Aging Program幹事大学として、年次総会や各種のセミナーなどを主導する研究拠点（ハブ）を運営した。3年間の活動報告書を発行し、以下でも公開している。

[https://www.global-sdgs.keio.ac.jp/wp-content/themes/Keio\\_University/assets/pdf/2018\\_2020FinalReport2021\\_finalversion.pdf](https://www.global-sdgs.keio.ac.jp/wp-content/themes/Keio_University/assets/pdf/2018_2020FinalReport2021_finalversion.pdf)

## ■ 自由記述欄

### ○ THE 世界大学レピュテーションランキング2020

THE World Reputation Rankings 2020が発表され、本学は151-175位にランクインし、日本の大学で9位、私立大学では1位を獲得した。このランキングは、世界各地の研究者に対し、研究力と教育力に関する大学のReputation（評判）を尋ね、その結果に基づいて順位づけがなされるものである。

### ○ 世界で影響力のある研究者（Highly Cited Researchers 2020）に慶應義塾大学から4名の研究者が選ばれる

クラリベイト・アナリティクス社が毎年選出しているHighly Cited Researchers（以下HCR）に、医学部の本田賢也教授（微生物学・免疫学教室）、新幸二准教授（微生物学・免疫学教室）、田之上大専任講師（微生物学・免疫学教室）と佐藤俊朗教授（坂口光洋記念講座・オルガノイド医学）の4名が選ばれた。HCRは、前年（2019年）に発表された論文を対象とし、21の科学分野において、被引用回数が上位1%に入る論文を複数発表している傑出した研究者と定義されている。2020年版では、世界全体で6,167名（約60か国）が選出され、日本からは約90名が選ばれた。

